

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は国公立大学を志望していたのですが、併願校として私立の大学を探していた時に学校の先生に同志社女子大学を勧められて調べてみると、家から通いやすく、校舎も綺麗でとてもありがたい環境だったので同志社女子大学を受験校に決めました。

(2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

1学期は主に勉強だけの生活もあるという習慣がついていたので、好きな科目である数学を9月のあるようにスケジュールを立て、それに向かう習慣をつけ、勉強するのが当たり前という感覚を頭や身体に覚え込ませました。内容としては高校2年生までに学んでいる数学、英語、国語の復習をくり返して、苦手を分析し、上でも強く苦手を伸ばしていくという勉強をしていました。

〔夏休み〕

夏休みの間はずっとセンター試験用の勉強をしていました。教科科目の中でも国公立大学の二次試験用や私立大学の一般入試で必要になる英語と数学は時間を多くかけました。私は暗記科目が苦手で、1学期にはあまり時間もかけていなかったのですが、長期休日は学校の授業がなく、1日中自由に時間をとれると思ったので、生物と倫理を一気に一通り進めました。暗記科目は夏休み中の一通り終わらせておいた方がよいと思います。英語と国語は毎日1時間ほどに感覚が落ちて点数が下がると思ったので、少しだけでも毎日文章に触れていました。

〔2学期～入試直前〕

2学期の初めは夏休みの間に進めた生物と倫理も問題集を使って覚え、知識が定着しているのかを確認し、間違っていたら覚え直し、覚えていない所を埋めていくという作業を何度も繰り返しました。冬休みからセンター試験用の過去問を毎日して、時間内に終わらせるという感覚を身に付け、間違いや反省点を毎回1つに書き込んで、毎日1つを見て2回以上同じミスをしないという強い気持ちを持ってやり続けました。3学期が始まってからも同じように進めながら、加えて同志社女子大学と私立の大学の過去問をセンター試験まで一通り終わらせました。センター試験が終わってから、もう1度過去問をして苦手な範囲に絞って参考書や問題集を使って最終確認をしました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

学校の先生が途中で退部したり、行事に参加したいは結局成功しなかったとよく言っていたので、私はそれを信じて最後まで部活動をやったり、行事にも積極的に参加しました。しかし、楽しい事ばかりでも成績が伸びるわけがないので、しっかりオンオフの切り替えをしていました。月々勉強をしても、好きな事ができなくなるので、ストレスが溜まり、悪循環に陥っていたと思います。勉強したい気持ちには山がなかったので、休日を崩してしまったり元も子もないので毎日0時半に寝て6時半に起き、必ず朝ごはんを食べるという生活習慣だけは1年間守っていました。私はスマートフォンが近くにあるとつい触ってしまいがちだったので、親や先生に預けていました。スランプはありましたが自分だけがよいので諦めずにやってやりまくるだけだと思いました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

大学受験は思っているよりもとても精神的にも肉体的にも大変なことだ。でも、絶対に合格するという諦めたい気持ちを持ちつづけて頑張ればいい。大変なのは周りの人も同じなので、友達同士で助け合い、本当に辛い時は好きな事をしたりリフレッシュ、最後まで走り続けてほしい。努力はきっと報われる。